



3月議会
報告その2

建設環境委員会 大垣都市計画マスタープラン等 大垣市の将来像など基本計画提示

建設環境委員会で「下水道」「水道」「都市計画」に関して、近未来の事業計画などが報告されましたので、その概要についてお知らせします。尚、もっと詳しく知りたい方はご連絡ください。

市議会議員 笹田トヨ子

市街化調整区域に下水道 6年間に92億円

現在すすめられている大垣市公共下水道（大垣処理区）事業は平成22年3月31日で市街化区域全域が完了します。そこで、市街化調整区域を対象とした変更計画（案）が出されました。平成22年度から6年間の工期で、事業計画区域は市街化調整区域のうち既存宅地155ha、処理人口600人、事業費は92億円です。

21年度内に 大垣市水道ビジョンの策定

水道の将来像と具体的な施策・工程を示した水道ビジョンの策定が今後の水道事業認可の変更を受ける時必要であるため、「大垣市水道ビジョン」を策定するものです。目標期間を10年程度とし、①事業の現状

分析・評価（経年化管路率、管路の耐震化率、有収率、施設最大稼働率、供給単価、給水単価、自己資本構成比率等）、②将来像の設定（「安心・安定・持続・環境」の視点で基本理念及び将来像を設定）、③目標の設定（計画的な施設の更新、水質事故の防止、災害対策の充実、環境・エネルギー対策の強化等）、④実現方策（施設整備のハード面及び運営・管理のソフト面から検討）の4項目を記載することになっています。平成21年度4月以降、公営企業等審議会を開催しパブリックコメントを実施して、平成21年度内に策定するものです。

長期基本構想に「徳山ダムの水を使用する」などと盛り込むことはないよう皆さんで監視していきましょう。

大垣都市計画区域マスター プラン（大垣市素案）

目標年次を平成32年とした大垣都市計画区域マスタープランの大垣市素案が出されました。その中で市街化調整区域の土地利用方針として、概ね20年後の都市の姿を展望した上で、概ね10年後までには良好な市街地の形成を誘導する地区として、以下の地域が出されています。（裏面参照）

- ①ソフトピアジャパン周辺地区
- ②外野地区（大垣環状線沿いに立地する大規模商業施設周辺）
- ③林町地区（周囲を市街化区域に囲まれ穴抜きに近い市街化調整区域）
- ④墨俣犀川地区
- ⑤東海環状自動車道（仮称）大垣西インターチェンジ周辺地区
- ⑥横曾根地区（名神高速道路南の工業系地域周辺地区）
- ⑦野口地区（工業系地域に隣接する地区）

また、市街地開発事業に関する方針では、概ね10年以内に実施することを予定している事業として、「郭町東西街区市街地再開発事業」と「大垣駅南街区市街地再開発事業」が挙げられ、その他の市街地整備方針では上記の①～④の地区を優先的に市街化区域の編入を誘導するとしています。そして、平成22年、市街化区域編入要望地区として、2つの地区を挙げています。ソフトピアジャパン周辺地区：情報関連産業の集積を誘導し、それに伴う人口集中に対応するため、周囲は良好な住宅地として計画的な市街地整備を行う。外野地区：民間開発による商業集積がされており、周辺を含めた計画的な市街地整備を行う。